

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	まくらぎ子ども発達支援センター すまいる(児童発達)		
○保護者評価実施期間	R8年 2月 2日		R8年 2月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14人	(回答者数) 14人
○従業者評価実施期間	R8年 2月 2日		R8年 2月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3人	(回答者数) 3人
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認している。	児童発達支援計画策定にあたり療育スタッフとアセスメント情報及び抽出されたニーズの共有の後、療育プログラムに沿った支援が行われている。	個々の発達状況の詳細を把握するためのアセスメント様式の家生活の状況を把握するためのアセスメントシートを保護者と共同で行っている。家庭や保育園・療育機関等全般的な情報収集および分析から課題を抽出している。
2	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか	療育支援にかかる専門的研修への参加がなされている。また、特別支援学校や医療機関等々との連携を図るための各種研修会や行事等への参加もなされている。	事業所全体の質の向上を図るために、医療的ケア児支援者研修、児童発達支援管理責任者研修、強度行動障害者研修等専門研修受講や資格取得のための研修受講がなされた。
3	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	自立支援協議会子ども部会へ積極的な参画を行っている。地域の療育支援についての課題等を各関係機関と共に取り組むべき協働に努めている。	枕崎市障害福祉課・教育委員会・健康センター・療育事業所が一体となって療育支援にかかる「評価ツール」を作成し障害特性に応じた療育支援につながるよう検討が行われている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	第三者評価への取り組みは行われていない	施設管理者が鹿児島県の第三者調査員としても第三者評価事業に関わっていることもあり内部的な検討となっている。
2	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか	感染対策等の課題から地域住民の参加までには至っていない	地域に開かれた事業所の連携の在り方を地域の方々と話し合える機会の確保に努めていきたい
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 まくらざき子ども発達支援センター すまいる

公表日 2026年 2月 24日

利用児童数 14

回収数 13

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	14					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	11			3		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	13				1	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	14					
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	14					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	14					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	14					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	14					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	14					○今後とも支援計画に沿った療育の進捗状況を共有できるよう、連絡帳等で詳細に日々の療育報告を継続していく。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	14					○療育プログラムについては、固定化した内容とならないように、子どもの発達に応じて適宜見直しと個別性を重視しながら工夫している。さらに内容の濃いプログラムの検討を行っていく。
保 護 者 へ の 説 明 等	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	12	1		1		○保育園・幼稚園等との並行通園を行っており、日常的な子ども同士の交流の機会は確保できているが、事業所間交流については今後検討していきたい。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	14					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	14					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	13	1				
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	14					○連絡帳を活用したり、保護者によってはメールや写真データ等活用しながら日々の療育についての共通理解が進むよう努めているが「相互理解」が進むよう取り組んでいきたい。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	14					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	14					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	14					
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	13	1				
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	14					

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	14					○毎月の「すまいるだより」で活動概要や行事予定・行事報告等を行っている。自己評価についてもホームページにて公表しているが周知の方法を工夫していきたい。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	14					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	14					○BCPの策定がなされ昨年は保護者も参加しての訓練を行ったが、今後も開催方法を検討して更なる周知と内容の充実に努めていきたい。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	14					
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	14					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	14					
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	14					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	13	1				とても楽しみに通っています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	14					相談もしやすく、満足しています。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		まくらぎ子ども発達支援センター すまいる		公表日 2026年 2月24日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		○指導訓練室等十分なスペースを確保すると共に運動施設等別途準備している。	○現在の利用定員を勘案すると十分な広さは確保されている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			○現在の利用定員を勘案すると十分な広さは確保されている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		○子どもにわかりやすく、自発的に動ける空間となるように設計されている。バリアフリーの施設がある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			○建物内では清潔に保たれた中で療育が提供されている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		○日々話をしながら、改善に取り組んでいる。 ○人事考課制度が採用されPDCAサイクルが機能している。	○目標達成型の人事考課制度が導入され、考課時に目標設定と振り返りが行われている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			○保護者に対して事業所の評価を実施し、保護者の意向を確認し療育と中心とした業務の改善につなげている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		○日々話をしながら、改善に取り組んでいる。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		○第三者による外部評価は実施していないが、今後外部評価の導入に向けて事業所の体制強化に努めていきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		○法人でキャリアパス制度において研修計画とその受講が位置付けられ、資質向上の機会として研修が実施されている。	○年度ごとの事業計画の中で、職員の資質向上を図るための研修計画が盛り込まれており、毎月の職員会議の開催と合わせた研修が行われている。今後とも積極的な研修受講を進めていきたい。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○			○事業所で所定のアセスメントを行い、ニーズの抽出、課題検討へとつなげている。障害特性や発達課題によっては詳細のアセスメントが必要となり、別途検査スケール等の情報をもとにしたアセスメントも併せて行い、発達課題に応じた児童発達支援計画を作成している。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			○児童発達支援計画策定にあたり療育スタッフとアセスメント情報及び抽出されたニーズの共有の後、療育プログラムに沿った支援が行われている。今後も継続して取り組むを行っていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		○子どもの発達段階に応じたグループ編成とプログラム立案をチームで行っている。	○活動プログラムの立案については、療育スタッフ及び児童発達支援管理責任者等により、立案が行われている。チームによる多様な視点での立案を継続していきたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		○個別と集団活動を取り入れたプログラムとなっている。	○個々のアセスメントの中で個別療育と集団療育についての療育を意識しながら個別支援計画の策定を行っている。今後も継続していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			○日々の療育内容についてはスタッフ間で共有し、事前の療育内容について把握された上で療育が提供されている。今後についても密な連携を図っていきたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		○療育終了後に療育内容や個々の子ども様子等を振り返りながら実施内容の確認を行っている。実施状況については療育日誌に記録している。今後も継続していく。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		○個々の発達支援のプロセスを適切に把握するため記録を行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		○定期的なモニタリングを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		○個別の事例に応じて、児発管や担当スタッフ等参加者を配慮している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		○主治医との連携を図るべく受診に同行し、主治医から療育上の配慮や緊急時の対応、現在の病状についての助言等を受け、連携を図っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		○シームレスな支援を行うために連携を深め、情報共有を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○			
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○			
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		○日々の連絡帳での情報共有と電話やメールでの相互交流により共通理解を図っている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		○ペアレントトレーニングを意識した家族を対象としたグループワークを行い家庭での育児や個々の課題について振り返る機会を設けた。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		○利用契約にあたり個別に説明の機会を設けている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		○児童発達支援計画については、発達の現状とそこでのニーズを明確にしながら説明の後、同意を得ている。	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○				
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		○計画の見直し時期や就学相談会、進級時等の機会を捉えて必要な相談支援を行っている。		

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		○年2回(9月、3月)保護者会を実施している。 ○事業ごとの保護者会や児童発達と放デイの合同保護者会を開催したり保護者同士の連携や兄弟児の支援に係る取り組みを行っている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		○保護者からの相談には早期に対応できるように随時受け付けて事業所での面談を実施している。	○相談があるときはいつでも事業所での相談をお受けする旨を保護者に伝えている。事業所への相談事例も多いため、今後についても積極的な取り組みを行っていききたい。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		○年間行事予定と月初めにおたよりを配布して、活動概要や行事予定をお知らせしている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		○「個人情報保護規定」により個人情報の保護及び開示に努めている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		○意思の疎通を図るために個別の配慮のコミュニケーションに心がけている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		○「事業継続計画(BCP)」の策定が行われ、訓練等実施しながらマニュアル等の周知を図っている。	○「事業継続計画(BCP)」が整備され、保護者が参加した訓練も実施された。今後は広く保護者に向けた周知を図っていき、災害時の発生時に保護者と協働して適切な対応ができるよう進めていきたい。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		○月1回避難訓練を実施している。	○BCPを策定した定期的な研修及び訓練を行っている。保護者及び職員合同での救急訓練等もしている。不審者等外部侵入者への対応についても警察署と共に訓練が実施されている。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		○アセスメント項目の中に含まれており確認を取っている。	○アセスメント様式の中で個々の状況を確認できるようにしているが相談支援事業所との連携の中で十分な確認も重ねて行っていききたい。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	○アセスメント情報の中で個々に確認を取っている。	○入園前に確認をし対応できるようにしているが現在アレルギーを持っている子どもはいない。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		○ヒヤリハットの取り組みを行い、専用のファイルで情報がなされている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		○定期的に虐待防止に係る研修を行っている。	○事業所内での取り組みや研修への参加を継続していき、虐待防止の意識向上を図っていく。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		○身体拘束廃止マニュアルを整備されており、定期的な研修により周知を図っている。	○現状では身体拘束の実例はないが、身体拘束については研修への参加や事業所内での周知を継続していき、身体拘束ゼロの取り組みを継続していく。	